

平成26年6月9日～6月15日までの全国の暑さ指数（WBGT）の
観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について
（お知らせ）（平成26年度第1報）

1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について、今年度は、5月12日(月)から情報提供を開始したところです。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行うことといたしました。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

2. 先週(6月9日～6月15日)の全国の暑さ指数の観測状況について

暑さ指数31℃以上(危険)の時間数(168時間中)

- | | |
|------------------|-----|
| 1. 久米島(沖縄県) | 8時間 |
| 2. 石垣島(沖縄県) | 2時間 |
| 3. 与那国島、宮古島(沖縄県) | 1時間 |

<参考>全国9都市の観測地点

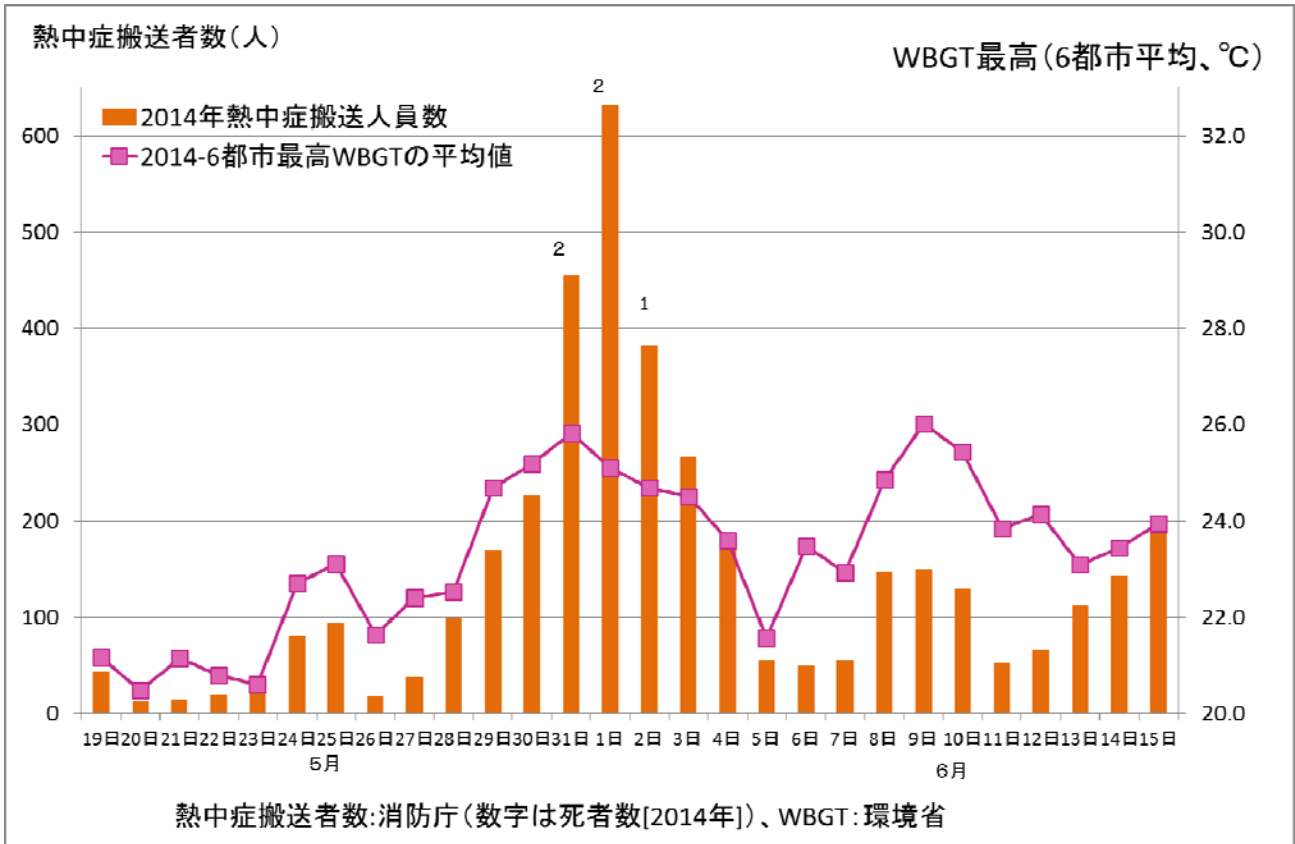
札幌(北海道)	0時間
仙台(宮城県)	0時間
新潟(新潟県)	0時間
東京(東京都)	0時間
名古屋(愛知県)	0時間
大阪(大阪府)	0時間
広島(広島県)	0時間
福岡(福岡県)	0時間
鹿児島(鹿児島県)	0時間

(注1) 暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。

(注2) 暑さ指数31℃以上の時間数は、今回の調査では、久米島の8時間が最多で、153地点のうち150地点では0時間でした。なお、暑さ指数31℃以上とは、(公財)日本体育協会の指針において、運動は原則中止レベルです。

3. 6都市の暑さ指数と熱中症による救急搬送者数（全国）との関係

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



○6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、6月9日～15日までの期間は23～26°Cで、熱中症による救急搬送者数は、消防庁発表の速報によると、52～188名とやや高い水準になっています。6月2日～8日までの期間は、全国的な高温により救急搬送者数が昨年比べてかなり多くなりましたが、南西諸島を除き、WBGTが25°C以下となった地点が多く、6月9日～15日までの期間は昨年よりも少なくなっています。

○南西諸島では、6月9日～15日までの期間、昼間の日最高暑さ指数(WBGT)が31°Cを上回る地点がありました。また、熱中症危険度の「厳重注意」を示すWBGT28°Cを超えた地点は0～9地点(全153地点中)で、熱中症に注意が必要な状態になっています。

○気象庁発表(6月17日11時時点)の週間天気予報では、最高気温・最低気温ともに、平年並か平年より高い見込みですが、期間の前半は平年より低い所がある見込みです。

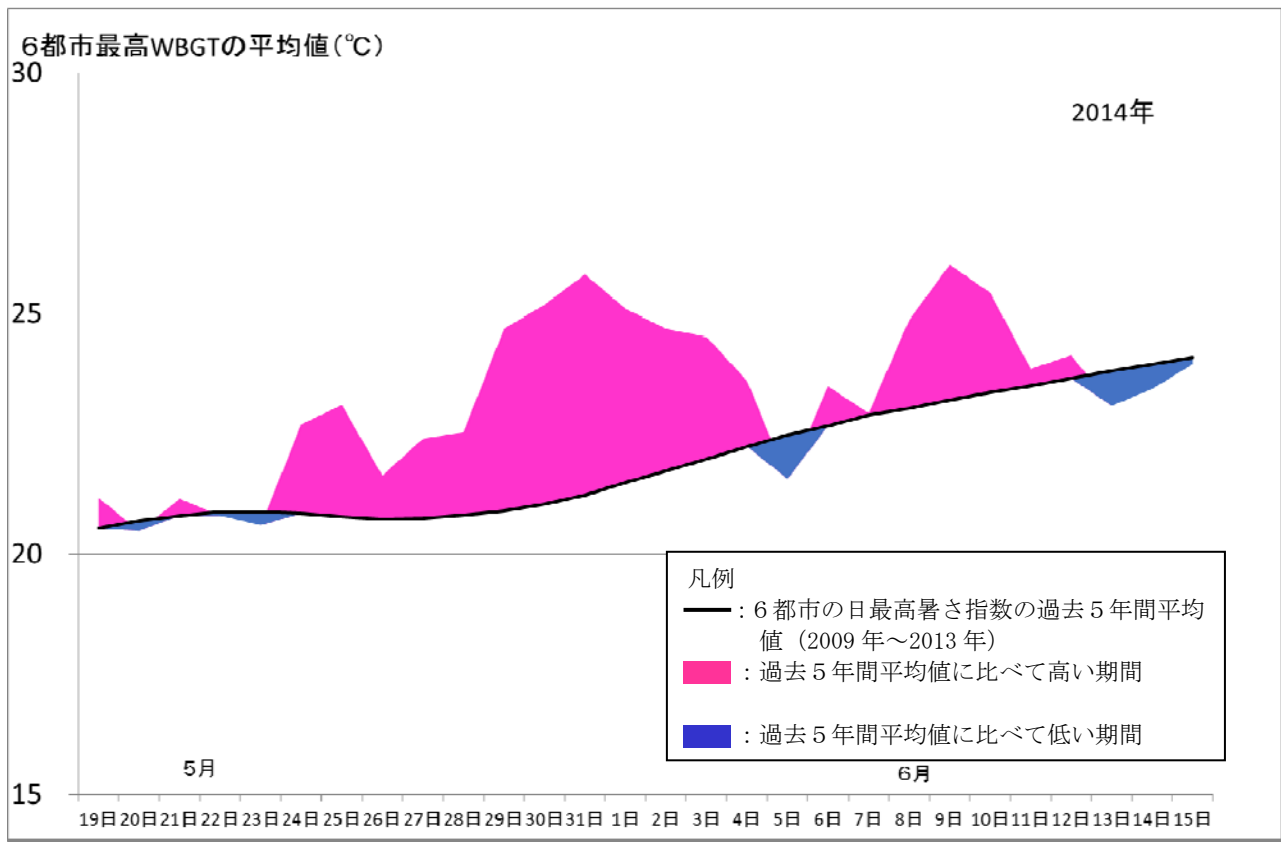
○梅雨の晴れ間の急な暑さは、熱中症に対して十分な注意が必要です。最新の気象情報を利用し、熱中症に対し十分に注意してください。無理な作業や運動をせず、こまめな水分補給や休息をとるなど、体調管理に注意してください。

(注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。

6都市：東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡

4. 2014年の6都市の暑さ指数と過去5年間平均（2009～2013年）との比較

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



今年の6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、5月下旬から6月初めにかけて、過去5年間平均を大きく上回りましたが、6月第1週の後半から、過去5年間平均よりも、やや低くなっています。

5月後半は、例年よりも早く暑くなるとともに、日最高暑さ指数が例年よりかなり高くなり、熱中症搬送者数が急増し、昨年よりも早く死者が記録されました。体が暑さに慣れていないこの時期は、真夏よりも低い温度でも熱中症が発生しやすくなりますので、十分な暑さ対策を心がけてください。

(注) この項(4項)は、平均を大きく上回る高温が記録されたときに追加してお知らせします。